

## 第2回 学校運営協議会記録

### 0. 授業見学

#### 1. 学校長挨拶

- ① 再編整備の対象にならず。②コロナで始業式以来4度休校。③「解除」に伴う教育活動。部活動の再開、書道部が書道パフォーマンスの全国大会大阪予選に出場。修学旅行は行き先を変更して山梨方面へ。10月23日に体育大会、12月に文化祭予定。就職試験、進学の試験も進んでいて、日常を取り戻しつつある。④1人1台端末配備。非常時に自宅でのオンライン学習について準備を検討中。⑤ヤングケアラーの調査、約4%が当事者か。府は結果をもとに支援施策を作ろうとしている。

#### 2. 取り組みの進捗状況

1年主任、2年主任、3年主任、教務、進路、生徒会、総務、保健の順に各部長から報告。

#### 3. 協議

委員：1年生での「個々の支援」は、具体的にどのような取り組みか？

教員：例えば、担任と支援員とで協力し、ロッカーや提出物の整理整頓を支援している。「ファイルを取りに行つて10～15分帰ってこない」ことなどを防止して、点数をとる、進級する土台を作ってきた。課題に懸命に取り組む子も多いが、定着が難しい。テストの中でも、点数が取れそうなところに特にフォーカスして支援に取り組んでいる。

校長：必要な場合、修学支援会議を開催して、情報の共有や配慮事項の検討を行っている。

教員：修学支援生徒2名の様子を報告。ほかに、療育手帳取得生が10人近く。提出物などをきちんとさせて、平常点の部分を満点近くに引き上げることをめざす。テストでも最低限の点が取れるように必死に教えている。どうしても苦手な手落ちもあつたが、追認でフォローする。

委員：修学支援会議とは何か？

校長：個別の対応を検討する会議。欠席日数や欠課時数超過に対応する課題の設定や、成績のつけ方のアレンジなど。

委員：個別に対応している？

校長：そうです。

委員：通常の授業をしながら支援しているのか？

教員：基本は全員同じ教室で一斉授業を行っている。

委員：支援員が横についていたりするのか？

教員：横につくこともある。ただ、支援員は学校に2人～3人。多くの生徒に関わってもらっている。放課後に生徒を集めることもある。

教員：支援員は、通常、生徒の横についてサポートする。支援が必要である生徒が何人もいる。支援は何人いても足りない。いろんな生徒を見てもらっている。

委員：中学ではどうしている？

委員：似ている。支援学級の生徒の数も、平野高校と同じぐらいの割合。抽出授業や原学級への入り込み、大学生のボランティア学習支援など、いろいろな方法をとっている。平野高校では、まめにやっていると思う。支援生以外にも身の回り、ロッカーや宿題整理などを担任が細目にサポートしているなど。「高校ではやっていけない」と思っていた生徒も手厚く対応されている話が聞けた。

委員：小学校では、①支援学級②通級指導③支援員対応。ただ、支援が必要な児童は多い。接点を作る意味で、朝はランドセルを直すことからやっている。平野高校が丁寧にやっている所を見習いたい。

委員：大学生のボランティアの制度は小・中学校にある。特に小学校には多く行っている。高校にはない。年齢が近いことが難しいポイント。小学校の教員免許を取りたい学生が希望していることが多い。大学としても何かのお役に立てれば、と思う。

委員：生徒指導部報告の、長欠増について。その子たちはどうしているのか。登校してもコロナで休校になったり、リズムが  
つくれなかったり。①引きこもっているのか？街に出歩いているのか？②家族との連携は行っているか？

教員：担任の対応が基本。パターンは様々。①ひきこもり②働く方向③登校したいが怖い（コロナ不安）など。それぞれ、家  
庭と連絡しているが、小・中学校の時から不登校の子もいる。新しい一歩で頑張ろうとしている生徒もいるが、今年  
はメリハリが掴みにくいのか、長欠が増えている。

委員：コロナが人生を変える状況。本来は、人間関係を学ぶ好機があるものを、コロナが難しくしている。

教員：他校でも同じような状況。平野高校は、まだ登校できている感触。他校ではサボリの「コロナ不安」も多いと聞く。1  
日に100人以上の出席停止が有る例も。本校で嘘をついて休むのは少ない方だと思う。

委員：コロナ不安の理由では、仕方ないか。

校長：教育庁からの指示もある。確かめようがない。

委員：学習保障はどうなっているか？

教員：府立学校ではオンラインでの対応を行っているが、本校では、休校になる前にペーパーで課題を渡している。

委員：大学では、オンライン申請して遠隔対応してきた。10月には対面（半分だけ）授業始まった。リアル参加数はこの会  
議室の広さなら10人から20人程度。高校は、教室に沢山人がいる印象。「GIGAスクール構想」高校の進捗は？

教員：1人1台の端末は配備された。

委員：小中学校で昨年度中に入った。

委員：中学校では使っている。通常時も。

委員：ログイン、設定など時間かかる？

委員：小学校では最初は時間かかる。特に低学年。高学年がサポートしたりしている。ただ、1回は入れれば後は楽。

委員：Wifiない生徒は？

委員：中学校では1~2人、ルーターを貸している。

委員：小学校でも同じくらい。端末の持ち帰りは月に1回くらい。金曜から月曜といった具合。家のものを写真撮って紹介  
するとか。双方向はまだできてない。難しい。

委員：前にいない、顔出ししたくない等。顔が見えないからやりにくい。

委員：不登校の子に、Google Meetでやりとりを行った。いい使い方ができた。

委員：最初は時間がかかるが、中学で慣れた生徒が入学してくることを考えると、もっと、できるようになる。大学では面接  
指導などを遠隔でやっている。端末は、いろんな方法で使えるのでは？

校長：GIGAについて、チームを作って検討をしている。持ち帰りはどうするか。鞆を持って来てない、ロッカーに入ったまま、  
アルバイトに直行、といったことも考えられる。他校では、家に置いて休校時に授業、時々学校に持ってくるスタイルの  
学校もある。本校では、一旦「学校で使う」ことを目標としている。

委員：高校としては、手厚く個別の授業をしているのは、いい話。

委員：1年生、おちついている印象。「やろう」と思っている生徒が少なからずいる。その生徒たちが勉強できるようにしたい。  
小学校では、授業の時に「めあて」を黒板に書くなど。今日の授業見学でも一人の先生が「めあて」を板書していた。  
「何をするか」という手順でなく、「めあて」を書くと、雰囲気が変わるかもしれない。授業改善のキーワードになるので  
は。

#### 4.まとめ

3年連続定員割れ。学習到達度の違いは、本校の課題。学習保障・進路保障をどのように行っていくか、特性のある生  
徒のサポート等、課題は多いが本日多くのヒントを頂いた。今後活かしたい。